院内集会『風力発電の諸問題』

日時：平成 25 年 5 月 24 日（金）13:00 開場／13:30 開会

場所：参議院議員会館地下 1 階 B-108 会議室

（山本里子）
それでは、最初にここの会場とこの会を開くにあたってご尽力いただいた岡崎事務所の勝木さんにご挨拶いただきたいと思いますけれど、今お電話中なのでその後お電話が終わった頃お願いしたいと思います。
それでは勝木さんお願いします。

（勝木）
参議院の岡崎トミ子の秘書でございます勝木と申します。皆さん遠くから大勢お越しいただいたということで本当にお疲れさまでございます。
議員がもう何年も前から覚張さんから風力発電は問題があるので色々話をぜひ聞くように、という事で情報提供をいただいていました。
基本的には、いつも再生可能エネルギーというのはどんどん伸ばしていかなければいかないと思っているのですけれど、いろんな現実に起きている事故であればちゃんとすることは伺い知れないし、ルールとかきちんと乗っ取って進んでいかないといけないし、と議員が言って国会でも質問させていただいておりました。
今日、本人が来れなくて申し訳ございませんけれどまた記録等いただきたいと思ってます。
今日は省庁の方も本来議員がいて、いなくてはいけないのですが、来ていただいて、私の話を聞いてくださいという形だったと思うんですけれど、来て頂いてありがとうございました。よろしくお願いいたします。

（山本）
私、伊豆ネット、風車問題伊豆ネットワーク代表、山本と申します。名ばかりの代表でブレーンが外にいるんですけれど今日は司会を務めさせていただきたいと思います。上手くいくかどうか皆様のご協力で、ぜひ有意義な会にしたいと思います。よろしくお願いいたします。今日は忙しいところ省庁の皆様ご出席有り難うございます。よろしくお願いいたします。
それでは谷岡邦子参議院議員からメッセージが来ておりますので最初に読まさせて頂きます。

「院内集会、風力発電の諸問題にご参加の皆さんお疲れさまです。二年前の原発事故は私たち日本人にとって大きな衝撃でしたが、と同時にかっての公害において被害者の方々が置き去りにされてきたという歴史が原発でも繰り返されているという事を非常に（憂悲？）しています。そして風力発電による健康被害もまた同じ構造の中にあるのではないかと考えています。
地域の事は地域で決めるという地域主体が本当に確立していれば原発にも風力発電にも NO と言えたでしょうし、そうでなくても被害が発生した時点でそれを止める事が出来たはずです。残念ながら現在の日本の政治はそうなっていません。それぞれの地域に於いてそこに生きる人々が決定しその自然、文化、生活を守っていくそれを可能にする政治が必要なのではないでしょうか？私たち緑の風もそのような政治を目指してまいります。決して平坦な道程ではありませんが、本日お集りいただいた皆様にもあきらめずに正当な権利として要求し続けて頂けるよう、改めてお願いいたします。最後まで一緒に頑張りましょう。
2013 年 5 月 24 日　緑の風代表　参議院議員　谷岡邦子」様でした。

それでは最初に永尾俊彦様に由良町からの報告をしていただきます。よろしくお願いたいします。

（永尾）
あの永尾と申します。最初にお断りして於かなければ私、特に風力発電の専門家では有りませんで、ただ何カ所か風力発電の現場を取材してきたという事で今日、依頼を受けまして話をさせて頂くという事になりました。
お手元に私のレジメを用意したのですがご覧いただけますでしょうか？和歌山県由良町の風車被害の報告、A3 のレジメです。お手元にない方は後ろにコピーをして持って参りましたのでどうぞお取り下さい。それから後、週刊金曜日に 3 月 22 日号なんですけれどその由良町の報告のルポタージュを（張り出し）ましたのでそのコピーも持って参りましたので後ろにありますのでどうぞお取り下さい。それじゃあ 15 分から 20 分間という事で時間いただいてますので早速話をさせて頂きたいと思います。由良町を取り上げますのは一つは典型的な事例じゃないかと思いまして、この町を取り上げる事にいたしました。

私のレジメの一番目のところに被害者の苦しみという事を書いておきましたけれど今日は由良町の被害者の谷口愛子さんがいらっしゃってますのでぜひこの後皆さんに直接、お辛い様子を語って頂きたいと思うのですけれど本当に辛いという事なんですが、頭痛と不眠、イライラ、耳鳴り、血圧上昇などなどの様々な症状が現れているとそれで週刊金曜日のレポートにもちょっと写真を載せて於いたのですけれど、この一ページ目の右の下のところに谷口さんの日記の写真が載っていると思うんですけれど、あの風車日記というような仮に名付けて於きましたけれど日々の辛さを記録として残してらっしゃってそれをちょっと見ただけでも辛い様子が伝わってきます。それでレジメの方に戻りますけれど、低周波音というのは音の高さヘルツという基準で言うと 100 ヘルツ以下、全く聴こえないとか、聴こえにくい音の事を言うそうです。そのヘルツ 1 ヘルツの波長というのが 340m もあるそうで非常に長くてエネルギーとして強いエネルギーを持っているそうなんですね。それが原因で様々な症状が引き起こされているのではないかと言う事なんですけれど、それは因果関係を環境省はまだ認めてないという事なんですが、ただその単純に考えて谷口さんのお話を伺ってその他の被害者の方々のお話を伺ってもですね、風車から遠ざかれば症状が治まると近づくと症状が出るという事から考えてやはり風車が原因じゃないかと私は思っております。それで和歌山市に汐見文隆先生という内科のお医者さんがいらっしゃるですけれど、この先生が風車の低周波被害を長らく見てらっしゃったんですが、風車病という風に名付けてらっしゃります。（米独）（英語）でもいくつか文献があるようでウィンドタービンシンドロームという風に呼ばれているそうです。

それでこの症状が非常に判りにくいのが（2）も書きましたけれど個人差があるという事なんですね。同じ風車の側に住んでいてもあまりこの被害を症状を感じてらっしゃらない方もいらっしゃいまして個人差が大きいという点があって被害者の方々は孤立感を抱きがちであると、なんで自分の苦しみが判らないのかというような事で孤立してしまうという事なんですね。その辺りの谷口さんの辛い心情は週刊金曜日のルポに書いておきましたけれど、なかなか判らない苦しみを訴えてらっしゃいました。

2 番目なんですけれどその由良町の風力発電を経営しているのは大阪ガスの子会社のガス＆パワーという会社なんですけれどその会社が谷口さんのお宅の近くに二つの風力発電所を建てておりまして、広川明神というのと、もう一つが由良風力発電所という二つの風力発電所があるんですけれどそこからの被害じゃないかと思われるんですが、谷口さんがそういった被害を役場に訴えましたところ、役場を通じてガス＆パワーはその被害の状況について日本気象協会に騒音とか低周波音の測定を依頼しました。それでその結果なんですけれど、低周波音の国の基準値が決まっていないという事を理由にして参照値というのがあるんですけれども、これを利用して谷口さんの被害は、参照値を大幅に下回っているので問題ないんだという報告書をまとめた訳です。ただこの参照値というのは環境省の低周波音の「心身に係る苦情に関する参照値」というのが正式な名称なんですけれどもその環境省の文章の中にもこの参照値というものは工場などの固定発生源が対象でありまして、風車のような風速によって音圧とか周波数が変化するようなそういう発生源これは固定発生源に対比して言えば変動発生源となるのかもしれませんけれど言葉として明確でありませんがそういう風な風車は対象に成っていないという事がはっきりと書かれているのですね。

そしてそういう誤用が全国的にも頻発しているようで環境省も文書を各自治体とか業者などに流している様なのですけれどそれが徹底しておりませんで、やはり私が取材した他の所でも参照値を基準に被害を消してるという所が何カ所か有りました。

それから２点目の問題点なんですけれど、これは後でも触れますが、風車からの距離も規制も今の所ないという事でありまして、谷口さんのお宅から最も近い風車は 650m の所なんだそうですけれど結構これは迫って見えます。大きくその遠くから見ると風車が民家の上に何かこう迫っている様な非常に圧迫感を感じる様なそういう近さですね。私が取材した所、今まで一番近い所では 200m を切る様な所もありました。本当に距離が非常に大きな問題でドイツでは 3 キロ位ですかね、この辺りは覚張さんがお詳しいと思うんですけれど、2 キロか 3 キロだったと思いますが、離さないと建てられないという規制があるそうです。

３番目なんですけれど行政の問題なんですけれど谷口さんが一番頼りにしているのは身近な行政である由良町なんですけれど、これが本当に冷たくてですね、住民の健康を守るべき一番身近な行政が谷口さんとかその他の被害者に対して極めて冷淡であると言う事なんですね。被害者の方々が会を作っているんですけれど、実態調査をして欲しいという風にお願いしてもそれすらまともにやろうとしないと言う事なんですね。今、由良町は町会議員が 10 人いるんですけれど由良守生さんというこの人は無所属なんですけれどこの方も近くに風車が有りまして、低周波音に苦しんでおりまして、この方が昨年６月の町議会で町長に質問をしたんですね。由良さんの質問の言葉としては「町の態度が風車によって死ぬ事がないならほっておけとイヤなら出て行けと、そういう態度に見えると、こういう政治は異常だと思いませんか」とそういう風な質問したんですけれど、畑中町長は「病は気からと言う言葉もございます。」と言う様な事でまともに取り上げようとしないという風な事がありました。それで 10 人、町会議委員がいるという風に申し上げましたけれど、もう一人共産党の方がいらっしゃるんですが、その二人の方以外は全員風力発電賛成推進の立場で町議会の休憩時間などに由良町議が風力発電の問題を取り上げると被害なんか無いんだと言う風な形で袋だたきにされるんだと言う様な事を訴えてられました。
由良町議が何で町が風力発電の被害に冷淡かという事の推測なんですけれども、固定資産税の問題で 17 年間由良風力から２億８千８百万円、広川明神か６千８百万円入るそうなんです。でエコ利権が問題の本質ではないかという風に由良町議は言っておりました。由良町は高齢化が進んで過疎の町なんですけれどもそういう町にとってはこういう風な固定資産税は非常に大きいんだという用な事を由良町議はおっしゃってました。
それからですね（２）なんですけれども由良町を管轄する保健所として御坊保健所というのが有りまして、そこの若手職員で正義感に燃える方が日本気象協会の測定に対して異論を公表したのですね。谷口さんの話を聞きまして日本気象協会の報告書なんかも見まして異論を公表したのですけれど、その異論に対して GP 社がですねご説明と称して御坊保健所に行きまして、その若手職員に説明をしたと。その結果その若手職員は納得のいく回答を得ていますと上司に報告したらしいですね。僕はその若手職員に取材に行ったんですけれど結局会わせてもらえませんで、その上司がこういう風にその若手職員から納得いく回答を得ていますと言う風に答えておりました。

それで御坊保健所としてはその回答を得ていますと言われたのでこの問題は一件落着したんだとそういう事を言っておりまして、この事を称して由良町議は行政ぐるみで被害隠しをしているんじゃないかと言う風に言っておりました。そういった地方自治体の隠れ蓑になっているのが環境省が風車からの低周波音の健康被害の因果関係を認めていないとそこからおそらく、くるんだろうと思うんですけれど、低周波音と（無印）であるとか風車からの距離の規制を未だにはっきりとしていないそれから環境アセスメントについても相当問題があるようなのでこの後、覚張さんがその事を申し上げると思いますけれど、などなどの問題があります。
それで※印の所に書きましたが、これまで日本は数々の公害が問題化しましたけれど水俣病で有りますとか近い所でありましたら石綿問題なども含めてそういった問題があったにも関わらず今回また新しい公害が表面化しようとしているのではないかとですね、今日いらっしゃってますけれど岡田健先生がですね私が取材したこの被害に対して「疑わしきは罰せるという態度で望むべきだと」いう風におっしゃってましたけれど、私も本当にまさしくその通りじゃないかと思います。公害問題というのはその産業の発展と健康被害とか自然環境が矛盾しているという所に非常に大きな問題があるんですけれども、そういう問題に対しては、予防原則という物を適用するべきじゃないかなと私は考えております。この予防原則と言うのは科学的に因果関係が十分証明されていなくても人命救済、健康被害救済というのを第一に考えて何らかの救済を暫定的にでも打っていく様な事が出来ない物だろうかと？その辺り今日環境省の方もいらっしゃる様なんですけれども何とかならない物なのかなと私としては思っております。
４番目なんですけれど、被害者が苦しみ続けているその他の要因を取材をして感じた事をそこにまとめておきましたが、助けてくれる医者とか科学者の方が極めて少ないということで中々、科学的な面からバックアップしてもらえないと、それから（２）に弁護士の方も少ないと。
戦ってくれる弁護士が少ないので被害者の方は泣き寝入りをせざるを得ないという面が有るんじゃないかなと思いました。それからこの問題に対して理解してくれる政治家が少ないと、いうのも被害者が苦しんでる原因ではないかと思います。私も含めてメディアが大きく報道をしないという事ですね。

５番目に脱原発の人たちにも再生可能エネルギーなので風車はエコだからいいじゃないかとそういう意識が広まっているようであまり理解してもらえないと６番目に考え方がちょっと違う点も有るようで被害者同士の連携も広がっていないという様な事もあるんじゃないかと思うんですけれど、全国各地で被害者の方がいらっしゃると思うんですけれど孤立して絶望感を抱きがちであるという事が問題であると思います。

（○○）風車による健康被害が全国的に拡大していると思います。それは当然ながら（1）番ですけれど風車の数が増えているということです。基準とか規制が未整備なままに昨年から風力などの再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が始まりまして、全国の風車の数を見ますと 2001 年度に 43 基だったのが 10 年後の 2011 年度には 1870 基になっていると。（4・3）倍ということですね。それに伴って（）なんですが風車被害が増大していると。私が取材に行った所だけでも、東伊豆町、南伊豆町、であるとか愛知県の田原市だとか愛媛県伊方町なんかに行ったんですけれど、どこでも同じように血圧が上がったとか耳の奥が痛いとか吐き気がするとか共通の訴えを聞きました。皆さん本当に切実にですね、せめて夜だけでも寝かせて欲しいと。この安眠出来ない事の屈辱ですね。色々な（症状）というのはあるのですけれど夜眠れないと言うのは本当に辛いかと思うんですね。その事を皆さん幾度もにおっしゃってました。

で（3）番なんですけれどやはりもはや公害ではないかという風に思います。

その事をはっきり認めた上で対策を考えていくべきじゃないかなと思います。

環境省の「風力発電所に係る騒音・低周波音に関する問題の発生状況」という報告というのがあるのですけれど、これによりますと、これまで全国 64 カ所の風力発電所で騒音とか低周波音に関する苦情が寄せられていると。一刻も早く実態を解明してどこで誰がどの様な苦しみにあるのかという実態調査でありますとか、それに基づいた被害者救済をするべきじゃないかなと思います。

６番目最後なんですけれど風車被害の風車の健康被害以外の問題というのもありましてそれに簡単に触れて置きたいと思うんですけれど自然破壊の問題というのがありまして多分この後、報告が有ると思いますが、風車というのは風の問題で山の尾根筋に建てられる事が多い様なんですけれど、その尾根というのがやはり生態系の上で非常に重要でありまして、生態系を尾根筋から崩してしまう。それから鳥が風車に当たって貴重な猛禽類などが死んでいるとバードストライクなんかの問題も有ります。

それから（２）ですけれど景観破壊の問題も非常に大きくて、景観というのは美的な価値観によってある程度個人差は有ると思うんですが、例えば富士山に風車を建てて美しいかな？と言う事なんですね。世界遺産に富士山が成ってですね、日本の誇るべき風景がですね風車が建つ事によって壊されてしまうんじゃないかと思うんですけれど、まだ富士山には風車は建ってませんが非常に美しい南伊豆でありますとか東伊豆の三筋山などなどにですね、三筋山はまだ建ってないのかな？南伊豆には既に建っているんですけれど、とても遠くから見るとなんとですねドラえもんのタケコプターが山に突き刺さってるみたいなそういう無様な無惨な光景に成ってしまいまして日本の誇るべき美しい自然が台無しになってるんじゃないかと思います。
それから（３）なんですけれど、大義名分として風力発電は二酸化炭素削減に役立つという事で始まってるはずなんですけれど、本当にそうなのかと。いうところの疑いもあると言う事なんですね。その事については週刊金曜日に海外の状況なんかも含めてまとめておきましたので後でご覧いただきたいのですけれど、簡単に紹介しますと要するに二酸化炭素、風力発電というのは風まかせなのでバックアップ用の火力発電が欠かせないと、それでいつもアイドリングの様な状態にしておかないといけないんだと。従って二酸化炭素を減らすのに役に立たないんだというような学者の方もいらっしゃって実際にヨーロッパなんかではそのように主張している市民団体もあるようです。その点に関して週刊金曜日の一番後ろに書きましたが再生可能エネルギーの積極的導入論者であるところの飯田哲也さんにインタビューしたんですけれど、飯田さんはそういう事はないんだと否定する立場なんですけれどもね。
なにわともかく、被害者の救済という事をとにもかくにも考えて頂いて、まずは寝られるようにしてもらいたいという事をですね私の方からお願いしたいと思います。最後にこのような非常に貴重な機会を与えて頂きました、ご尽力いただきました、覚張さんご夫妻にお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

（山本里子）
大変貴重な伝え込んだご報告ありがとうございました。それでは続いて（〇〇）

（川田龍平）
みなさんこんにちは。参議議員みんなの党の川田龍平です。今日は本当に風車の特に低周波による被害ですとか騒音の被害ですとかずっと私も環境委員をやっている時に自然エネルギーを推進すると共に健康被害の問題をしっかりと考えていかないといけないという風に思いまして取り組んできた所も有ります。やはりこの問題については少数の人たちが切り捨てられていくという所があると思います。本当に少数者の人たちが切り捨てられていく問題として薬害エイズの時もそうでしたけれど水俣病の問題ですとか、全体の中で本当に地方がどんどん切り捨てられていく所がありますし、それから原発の問題についてもやはり根っ子は全て同じだと思います。と言うのは人の命や健康よりも企業の利益やお金儲けを優先するという考え方や社会の仕組み、国のシステムそのものが変わっていかない限りこのような問題は解決していかないんじゃないかと言う風に思っていますので、ぜひこういった問題を解決していくには私も全力で頑張っていきますが、本当に多くの人にこの問題を知ってもらって本当にぜひこの事を多くの人にやっぱり自分たちの問題として考えてもらえるかどうかという事が大変大きいと思いますのでぜひ広報する、多くの人に広めるという事をしていく事が大事かと思っております。
（〇〇）国会議員の中で関心を持っている、この中で政治家が少ないとかですね、助けてくれる政治家が少ないという事も書いてありましたけれど、当事者の政治家の方もこの中におられましたけれど、本当に体調の苦しみとかは当事者にしか判らない所もありますので、ぜひほんとそういった事を伝えて頂ける人を増やしていくしかないのかなという風に思いますし、本当に当事者の人たちはやっぱり同じ環境にいてもですね人、個人差によって色んな差が出てくるんだと思います。本当にそういった意味でこういった一人一人の体調の事をですね、しっかりと配慮して考えられる様な社会にしていく為に、私も一人一人の本当に命が最優先される社会が実現する為に全力で頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（山本里子）
お忙しい中をありがとうございました。

（谷口愛子）
初めまして。谷口です。和歌山から来させてもらいました。（ヤッタンガラス）で有名な（熊野神社）で有名な和歌山県でございます。覚張さんのおかげでまだここで生きてます。この文書を書く頃は、もう今日死のうか、明日死のうか、風車の所へどないして行こうか？と思っていた頃で覚張さんが環境省さんに出すのに書いてくれて言われましたが、何でもいいやと思って書いたのがこれで、今見たら恥ずかしくて恥ずかしくて、そんな事でございます。
まぁ、永尾さんが殆ど私の事を言ってくれたのでもう聞いてくれてますよね？もういいですか？言いたい事はいっぱい有って一年半くらい言いたいんですけれど、なんかもう建たれて、2008 年に建ててから胃が重い、体がだるい、吐き気する、朝、体がこわばって、起きて歩くと右に寄って行ってドサンと転けたりしました。腕の神経切れて全然上がらなくなりましたが、人間って偉いもんで自分で自然治癒という力があってやっとここまで上がってきました。
それから 2011 年 11 月から三日三晩北風が吹き天井からヒューヒューと恐ろしい音と畳の下からドドドドドドドドと三日三晩眠れませんでした。今は頭は音波が叩くというかオゥオゥオゥオゥ、風車が止まっていても頭が叩かれて痺れてきますが、これは何て言う事か私には判りませんが、一秒に一回くらい頭に響いてます。今はなんか声が出なくなってきました。それで永尾さんが殆ど話をしてくれたので由良町のことを言います。和歌山県日高郡由良町は被害者は無いと言ってました。「病も気から」って言われて「何か事業をしたらリスクは必ずある」って町長は言います。最初は被害者は無いとゆうてたんですが被害者は一人となって、被害者は二人となって、今は被害者は二、三十人いると言ってると言います。町にアンケートを取らせて下さいと言っても取らんでもいいと言って取らせてくれません。日本気象協会の評価を絶対 100％正しいと言ってるんです。悪ければ保健所に行けと言われてしまいます。
県の方は、和歌山県の方は日本気象協会は健康にまで踏み込んでいくのは問題ですって。測定結果の報告で健康に及ぼす数値では無いと言ったのは間違っています。って県は言ってくれてます。日本気象協会は大阪ガス、ガス＆パワーが雇った所なのでガス＆パワーよりの事を言うのは当たり前と県は認めてます。

大阪ガスがこの前初めて被害者と話をしてくれたのが 2012 年の２月でした。その時、（波田地区）の被害者みたいな者、やかましい言っているのが三十八名集まってました。日本気象協会の（宇田木）さんが事後測定の報告をしてくれたんですが、健康に影響を及ぼす事は無い、環境基準を騒音基準を満たしているので健康に及ぼす事は無いとはっきり言い切りました。それから色々と町とも話をしていますがなかなか前に進みません。
由良風力、ガス＆パワーが日本風力に頼んで日本風力が建てて三井造船が事業を請け負ってガス＆パワーが買って又由良風力って言う名前付けてるんです。建てるときは 1500kw を 10 基と住民に説明したんですが建てたら 2000kw５基に変わっていました。これも（なんたい）やなぁ～と思うんですけれど私にはどうする事も出来ません。被害者は毎日毎日苦しいのできつい言葉に成ります。役場の人にも止めてくれ、喧しい、なんて言いましたが、あんただけやとか、（匿名）で周りを歩いたら二重サッシを付けている家が二軒いてたんです。役場の人に二重サッシ付けてもらってる家がいる事を言ったら「そうやあの人らは付けてもらってるんだ。」っていうから何で言うてくれなかったのか言うたら「あんた聞かなんだから言わなんだ。個人情報保護法あるから言わなかったんだ。」なんや判らん事言われまして、鬱に成りました。で鬱になってしばらくしてたけれどやっぱりこのままではいかんなと思って色んな本いただいて覚張さんに電話させてもらったら風車の被害者が沢山いる事を始めて判ったんです。岡田先生も見えてくれて岡田先生みたいな先生が来てくれたえら風車なんてすぐ止まると思ってました。
でもなかなか難しい事が判りました。また話戻って済みません。ガス＆パワーは区へ 200 万、20 年で 4000 万渡すと言ってくれてました。でも中々それは被害者としてはお金で解決する事は出来ないって言う事で緊急動議を出して一応保留にして有ります。でその時の余分な話ですが議長をしてくれた人が緊急動議を受け入れてくれたのでお金の問題は保留ですが、その方がこの前 63 歳で心不全で朝起きたら亡くなってました。臨時総会から四ヶ月後の事でした。
私は肺炎２回と胃潰瘍２回と手の神経切れたんと不眠と色々出てきてます。近くの方ではやっぱり夜中の２時に成ったら胸の上に何かいっぱい載ってきて、すごいしんどい。４時になったら息が出来んようになって救急でお医者さんに行って、点滴してもらったらまぁ落ち着くらしいんです。

環境省は国策ではない。環境省の前の中西さんという方が風車は国策では無い。業者がやりたいと言うからやらしているんですと言いました。（じょうおう）とか自治体はあたかも国策のごとく暗に宣伝をしています。地区民は付けられたらしかたがないんや、何言ってもアカンとあきらめムードですが脳梗塞３人、半身不随２名、心不全４名、心臓病３名、頭おかしい言うのが 20 名、そんくらい被害出てきてます。あたしも「もう今晩気違いに成りそう」な日も有ります。夕べ孫が、中学３年生の話をしておりまして下田の市長さんが人に害する物は自然エネルギーで無いと言っておられた事が一番いいって。
また私たちの村の上に 21 基ずーと並んでるんですが、ここが大平山なんです。大平山が出来たらずーと向こうまで日高・池田ウィンドファームが出来る予定に成ってるんでそれちょっとやめてよって言って反対してます。ジャネックスの川上社長さんが年間 24％しか回さないので音しても 24％なので共存共栄しましょうよ、辛抱してくれって言って説明に来てます。太陽光 300 万 kw 風車はまだ 250 万 kw ですと説明しましたが何でそんな競争してるんかなと思ったんですけれど今の所はそれくらいです。渡り鳥が飛ぶ時間風車止めてくれる（中根仏土壌）あるので風車は建てないなぜ人間は仲間に入れてくれないんでしょうか？阿部さんも三本の矢を四本にして下さいとお願いしたいです。済みませ s ん話しなれてないんで判って頂けたでしょうか？環境省の方どうですか？判ってくれましたか？ありがとうございます。

（山本里子）
それでは数少ない頼りになる学者の岡田先生、話を受けてコメントの方お願いしたいと思います。

（岡田健）
今、ご紹介いただきました岡田と申します。今日ここに着いてから 10 分か 15 分お話をして欲しいと言われましたので何も準備はしていないんですが今お伺いしたこういう話全部、現地見ております。私は本来は（流体電熱）の専門で大学にいたんですけれど私のボスがこの低周波やりだしまして、やりだしたというのもこれ環境省の方から何とかこれ問題直らないかと言う事で始めた訳です。まず我々は低周波音これ始め低周波空気振動と言ってましたがこの問題で苦しんでいる人を助けないか？その頃からこれどうしても手がつかないと皆さんが言っていたんですね。で環境省ももう一つ腰が上がらない。それはなぜかと言うと対策をする手法を持たないから声を出したら変な事になんてしまう。こういう考え方があるんですね。今もそうです。私が騒音静音総学会という物が出来て直ぐに入って何とかここを立ち上げて行きたいと言って動き出したのが昭和 50 年です。環境省さんのお二人若いですから 50 年は生きてましたか？（いいえ）それ位の話なんですが、その頃一人お亡くなりになりました。中央高速のある橋で低周波が出ましてそこに住んでいたおばあさんがおかしくなってそして病院に入ってそして飛び降りだったんですね。そういう問題が有ります。これを今やっている低周波の専門家の人たちはどうやってその頃見ていたでしょう。ただ単に測定するだけで直そうとしない。
今回参照値が出たときに聞いたらあれは、あれは、と言うんですね。あれは何なの？と言いたいんですが、誤摩化してしまう。で最近ごく最近に成りまして風車じゃ有りませんが、やはり音の問題で自殺をして亡くなられた方もおられます。それからごく最近先月か今月の 12 日に新聞に発表されましたが、もう頭がおかしくなって人を殺しそうだからなんとかしてくれと警察に飛び込んだ人が追い返されて翌日人を刺してしまった。死んだか死ななかったかはちょっと判りませんがそういう事件が起こりました。低周波の問題は特に怖くありません。ですが人間の頭の神経系統を狂わしてしまうという非常に恐ろしい病気なんです。ですからその人も、その音が止まれば音圧派が止まれば何ともない普通の人に戻ってしまうんですね。そこが怖いんです。

で今、学会に行きましても皆、反対。こんな事起こる訳が無い。聴こえない音でそんな苦しい事になる筈が無い。筈が無いと何故あなたが言い切れるんですか？と。私は今解剖学的な体の内容とか脳の働きとか興味津々で色々と勉強しておりますが、岡田、機械屋なのに何でそんな所に入って行くの？と言います。機械屋さん電気の事が判らなかったら仕事に成りません。電気科の人が機械の事判らなかったら成らない。何故機械屋が脳の回路調べたらいかんのか？言いたくなりますね。もっと学者さん勉強してもらわなければいけない。特にこの低周波問題と言うのは私色々と発表しておりますが、今何故こういう症状に成るのかという原因を私は一生懸命調べております。今、多額の予算を付けて学会は４年間かけて調査しています　が、被害が出ている所には行かないんですよ。それで何も無い所に行って風車の周りで音計ってる。何が結論得られるの？私は不思議でしょうがないです。私もメンバーの端くれに入れてくれた筈なんですが、一回として、一回はあったかな？一回くらい呼んでくれたけれど、他は呼んでくれません。そのように問題を定義して今はですね、あるボスに繋がってぶら下がるんだったら入れてやるよと。ボスに逆らう様な意見言うやつは入れてやらないよという話です。地震の話も原子力の話も皆そうです。もっともっと色んな人の意見を聞いてそれを新しくしていく、それが必要かと。私は決して風力反対では有りません。自然エネルギー反対では有りません。今、効率効率と言っていますが、効率というのは入力したエネルギーに対してどれだけ有効な物が取り出せるかというのが効率なんですね。ですからガスタービン燃やして発電所やってると燃料買ってきて入れると燃料代が高いとそれだけ効率良くしてエネルギー取り出す事が必要なんです。

風車、入れるエネルギーなんですか？お金払ってますか？自然が持ってきてくれた力を利用しているだけなんです。ですからそんなに効率効率と言って 20 回転までブンブン回す様な風力をする事は無いんです。これも馬鹿げてるんですよ。今、風車と言う物が輸入物が多かった。そうするとヨーロッパで最初計画されたのは定格 20 回転位で設計された物でしょう。それを日本に持ってきてこの狭い国土でブンブン回したら回り被害者いっぱい。10 回転あるいは 15 回転位、せいぜい 15 回転位までにしてくれればそんなに被害は出ない。10 回転～15 回転に落とすにはそれだけのヨーロッパから持ってきた物を改造しなくては成らない。増速ギアこれを変えればかなり低くもなります。

それから発電方式にも交流もあれば直流もある。交流ばっかりを使う事も無いでしょう。ドンキホーテが生きていたときのあの風車、文句言う人が居るのか居ないのかあまり知りませんが、あまり耳にしないですね。ドンキホーテみたいな風車がどういう具合に回っているのかを見て発電も得られるかもしれない。なぜ人を苦しめてまでやるか？これは金儲けです。金しか無いんです。作ったらドンドン買ってくれると言うから業者はドンドン作りたい。あんたたち文句言いなさるな。と言う様なこれが未だに、今アベノミクスでこう成ってきました昨日あたり株はどーんと上がった、一日でどーんと下がった。文句言っている人も居る。株をやる人はそれ位のリスク追わなければいけない。だけれども今、人間を苦しめてまでやらなければいけない、そんな急ピッチで発達する意味がどこにあるんですかね？日本では色んな所でまず公害の問題を話す時に言うんですが、うなぎ上りのカーブ、これ指数カーブ的に上がって行く、、皆喜ぶんです。「おぉ！株上がった！上がった！」とかね。ものすごく喜ぶ。必ず落ちます。そのうなぎ上りの途中で一辺一息入れなきゃいけない。そういった事を考えてあまりにも急速に、あまり言うたらいけないのかもしれませんが、資本主義と共産主義の変形が二つ共和しちゃったんですよね。日本人は何故中国はあんな物まねみたいな事をしてけしからん。と言ってるけど日本人もその昔その物まねみたいことして作って、ディズニーに怒られたんですよね。その様に考え方の違う所では必ず摩擦がでます。徐々にそれが融合して行く事が大事なんです。新しい技術が出てきたら、その技術を出したら必ずこういう問題が出ます。それを克服して行く事が大事なんですよね。ですから風車反対しません。風車で一番皆さん叫んで頂きたいのは、今現在の風車で被害を押さえる為には回転数を落とそう事だけです。他の事をやると色々と設計しなおさなきゃいけない問題が起きてきます。回転数を落とす事は何にも問題有りません。まずは問題が出ている周りの風車は回転数を落としなさい。その回転数を私は言ってますが、まぁ 12 回転位まで落としなさい。と言ってます。
これは理屈はその風車の羽の先端のスピード、これが関係しているんです。その風車の先端のスピードをある所まで押さえるというのが今の 2000kw あたりで直径 80m、これのデーターからすると、12 回転位まで落としたい。15 回転位まで落ちますとかなり楽になります。もうちょっと落として欲しい。

この回転数は風車の羽３枚が多いですが、３枚見てポールの所に来たときにストップウォッチをポンと押してそれをずっと追っかけてポンと押して４秒で回れば 60 を４で割って 15 回転位だなと。ヨーロッパ歩いてきてもデンマーク行きましても、こんな 18 回転、19 回転、20 回転回している所なんか無いです。もっと径が小さい風車でだいたい５秒位で回ってます。私がデンマークに行って畑の真ん中に建ってるのを見てそこにスーパーマーケット見たいな小さいのが有りまして入ってみてちょっと情報得る為にちょっと聞いただけで私が風車計りに行ったら止まっちゃいました。だからどこの国でもそういう問題は有るんです。有るんですが、それを認めたくないと言うのが事業者です。先ほどから由良町の気象協会、とんでもない。気象協会という名前プライドを持って下さい。言いたいですね。アセスメントしてましても、全然違う場所のアセスメントが全く同じで数値だけがチョ、チョと違うんですね。そして被害の問題は全く触れない。そして学会から出ている参照値より低いんだからそんな事起こる筈が無い。という事だけを並べて、日本気象協会と言えば誰でも知ってますよね。そういう所がそういうコンサルタントをすると。これは全く許せる話で絵はありません。コンサルタントの話で言いますと、（かみこんだ）と言う所に地熱発電所が有ります。１号機は蒸気プルームで着氷が起きてエラが折れて苦しんだと。環境省がそんな物を作ったら駄目だ。と言って２号機はどういうアセスでしょうか？出した所が昔と同じアセスメントが出て環境省がこれじゃ前と、１号機と同じじゃないか。こんなんじゃ作ったらまた被害が出るから駄目と。その時に私の所に来たんですね。わかりました。プルームやりましょう。いう話で。ところが、今の環境アセスメントの条件でやったら同じ結果しかでませんよと。これはですね、また地方行政の所へ行って聞きましたら、どこでやっても同じ結果が出る事が良い事でそういうアセスメントでないとイカンと言われました。これどうなっているのか？アセスメントと言うのはその技術者が見てその地域地域の特性を加味してそして色々ねってこれで影響が有るとか無いとかいうのが筋である。どこがやってもと言ったら金持ちの大企業が大コンピューターを持ってる所がやるそれで終わりです。だから環境アセスメント作って欲しい、作って欲しいと騒ぐのは私はクエスチョンマークだと思います。環境アセスメントが作られて調査する科目が決まって誰がやってもそこに当てはめて、誰がやっても同じですよ、そしたら国で決めたアセスメントを通った物をやってます。だから文句は言わないで下さい。とこうなってきます。

それが今、色んな所の風車を見ていますが、先ほど言われました岡田さん来てくれたら止まると思ったけどな・・・。止まらないです。止める事は出来ますが止まらないです。お役所からお墨付きを貰っているんですからお前の言う事が駄目なんだと言われたら何の手も打てないです。それから今エコウィークとかエコファーム、何か色々ありますね。エコキュート、調べます。大体来るのはどこかで調べた結果来るんですねえ。あぁもうだめですね。そんな事ですが調査の方法でいかようにも成りますのでこの風車の問題、もっともっと健康被害について訴えて直して行かなければと思います。風車その物は何も悪い風車ではありません。その使い方、人間の使い方も考えなければいけない。と言う事だと思います。どうもありがとうございました。

（山本里子）
いつまでも私たちの理論的科学的支柱としてご活躍お願いいたします。
それでは後ちょっと時間が少なくなりましたけれどお一人まゆみさん、村尾さんお願いします。

（村尾真弓）（58 分 27 秒）
（64 分 20 秒）